

# 第3回 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会 アクティビティ・マネジメント部会

日時：平成30年10月24日（水）午後2時00分から

場所：熊本市総合体育館・青年会館 第1会議室

## 次 第

### 1. 開会

### 2. 現地視察

### 3. 議題

（1）前回会議の振り返り・今回の検討事項

資料1、2
-------

（2）計画の骨子（イメージ）について

資料3
-----

（3）基本方針について

資料4
-----

（4）具体的施策事業の検討

資料5
-----

・事業カルテ

・カルテ作成のスケジュール

（5）その他

・次回部会について

開催日時：11月21日（水）13時30分～15時30分（予定）

開催場所：江藤ボートハウス

### 4. 閉会

（配布資料）

- ・配席図
- ・委員名簿
- ・資料1 前回会議の振り返り
- ・資料2 今回の検討事項
- ・資料3 計画の骨子（イメージ）について
- ・資料4 基本方針について
- ・資料5 具体的施策事業の検討
- ・参考資料 くまもと文学・歴史館周辺散策マップ
- ・水前寺江津湖公園検討区域図

## 【協議会・部会の要旨】

### 第2回 協議会（H30. 10. 10）

- ・ 外来種駆除のための防除計画をきちんと定める必要がある。
- ・ 江津湖にある句碑を観光に結びつけることはできないか。
- ・ 江津湖にある句碑と県立図書館を結びつけるようなルート（文学歴史ルート、学習ルート、環境ルートなど）をつくるとよいのではないか。
- ・ 外来種駆除において各団体が取組んでいるものを取りまとめて一大イベントとしてやるとよいのではないか。
- ・ 外来魚に対する条例についての周知方法を考える必要がある。
- ・ 学校教育の中で子ども達に啓発をしたり、子ども達を主役にするような江津湖のキッズクラブみたいなものをつくり、観察会を地元の校区に根ざした小学校や中学校が組織だってやっていけるといいと思う。
- ・ 公園内でバーベキューなど火気使用が可能な場所を設けることができないか。
- ・ 専門職の方が実際に現場を見て、そこで意見を出した方がより具体的になるのではないか。
- ・ キーワードとして湧水エリアの保全という言葉も必要であり、看板においては設置位置や有り様について検討してほしい。
- ・ 水前寺地区から広木地区までの一体感を持たせるためのトータルのデザイン計画が必要ではないか。
- ・ 外来魚駆除において優先順をつけて、種類を絞って対策を行うとよいのではないか。
- ・ イベントガイドライン作成において、人数と頻度を目指すことはやめてほしい。生き物たちにも目を向けて作成をしてほしい。
- ・ イベントガイドラインの作成においては慎重に進めていってほしい。
- ・ 意見聴取を行うにあたり、“そのままでいい”“変えないでほしい”という意見も大事にしてほしい。

### 第3回 環境部会（H30. 9. 28）

- ・ 水環境については、流域のつながりも重要なのできちんと明記してほしい。
- ・ 自然と人とのバランスが重要。いかに共存・共生を図っていくかが大事。
- ・ 人が立ち入ることによって生物にどう影響するか明記してほしい。
- ・ 環境部会としては、生き物にとっても誇れる空間づくりを目指していきたい。
- ・ 目標に“歴史・文化”をきちんと明記し、文化的資源の活用策についても考えていきたい。

### 第2回 アクティビティ・マネジメント部会（H30. 9. 25）

- ・ 江津湖の生き物を対象にした水族館を整備して、子ども達が江津湖を知るきっかけをつくってはどうか。
- ・ 江津湖を利用したスポーツイベント（マラソンや水上スポーツなど）や健康に関するイベントをしてはどうか。既存イベントのいくつかでも江津湖を会場にしたりすることもいいのではないか。
- ・ ネーミングライツを行って、トイレをきれい（和式→洋式）に保つことがあってもいいと思う。

- ・江津湖で気軽に行うことができる運動をリスト化した“アクティビティリスト”のようなものを作成すると、江津湖の魅力発信につながるのではないかな。
- ・昔に比べると水深が浅くなり、ヘドロも堆積している。
- ・浅くなっている箇所の浚渫はできないかな。
- ・砂取庭園や芭蕉苑あたりは詳しい方がいないと周れないので、地図か何かあるとよいと思う。
- ・ヨシが増えると湖が沼に変わるとも聞いたことがあるので、除去ができないかな。
- ・適正な管理を行うために、施設の集約や減築を考える必要があるのではないかな。
- ・“水”をアピール・発信する上では、マーケティングによるブランド化の視点が必要である。
- ・目指すべき方向性については、誰がどのような体制で行っていくのか、今後明確にしていくなが必要がある。
- ・プレイヤーが必要となる。例えば大学で会社をつくって、そこから民間に営業をかけていくなような仕組み。

## 第2回 環境部会（H30. 8. 24）

- ・水環境の保全については、現在の取り組みの継続や発信をすることが重要である。
- ・江津湖の環境に関する調査が不足しているので、過年度のデータの集積・整理をした上で、必要な調査を行う必要がある。
- ・外来生物については、江津湖における調査結果をもとに、現況の把握や効果の検証を行わなければ駆除は難しいと思う。
- ・江津湖の歴史・文化と自然環境を融合させるようなものがあると、より魅力の発信につながると思う。
- ・江津湖に関する情報の集積や発信の場として、ビジターセンター（仮）の設置が望ましい。
- ・江津湖は、自然環境と人間活動が共存・共生している場所で、完全にゾーン分けすることは難しいので、環境に配慮すべきゾーンとして情報を提供することも大事。

## 第1回 アクティビティ・マネジメント部会（H30. 8. 6）

- ・アクティビティに関すること環境保全優先に考えていくな必要がある。
- ・「今のままが一番よい」という意見も大事にする必要がある。
- ・余裕をもって維持できるような仕組みづくり（持続可能な維持管理システム）が求められている。
- ・江津湖に関わる方々の組織化、人材育成によって、大きな力が生まれるのではないかな。
- ・マナー問題（飛び込み等）への対応が必要である。
- ・看板がない公園を目指すとか、今の技術等で公園を面白くしていく考え方もある。
- ・わかりやすい言葉で、魅力と改善するところを整理するなど、整理の仕方の工夫が必要である。

## 第1回 環境部会（H30. 7. 23）

- ・まずは長期的な目標を固めて共有すべき。その上で、短期・中期の方策を考える必要がある。
- ・環境と文化は一つの塊。環境と文化のバランスを図っていく必要がある。
- ・江津湖の環境に関する基本情報が足りない。江津湖を保全する上で必要なものは今回を機

に調査する必要がある。

- ・ 人間活動により自然が追いやられている。例えば、人間活動を受けやすいカヤネズミの活動範囲が狭まっているので、ヨシを復活させたり、自然ゾーンと人間ゾーンを分けたりして、自然と人間の共存を図るべき。
- ・ 江津湖で活動する誰が必要とする“水”を大事にすべき。
- ・ 緑化フェアでは、各団体において自然観察会を実施し、熊本の自然を知ってもらう契機にするといい。

#### 第1回 協議会（H30. 7. 4）

- ・ 部会以外の委員意見の反映はどうなるのか。
- ・ 外来生物において今出てしまったものの対策だけではなく、新たに出さないという部分も強化して欲しい。
- ・ 護岸工事や夜間照明を行う場合には、生物たちのことをよく理解した上で行う必要がある。
- ・ シードバンク（埋土種子）を活用した河岸植生の復元も必要である。
- ・ 今年はないが、藻を少なくしていくような対策をお願いしたい。
- ・ もともとの自然に戻すエリアも必要である。（ゾーニング）
- ・ 江津湖の主役は「水」であり、生き物だけでなく、水も共に取り戻すような取り組みが必要である。
- ・ 外来種の駆除は、計画的、継続的に行っていく必要がある。
- ・ 江津湖をきれいにする取り組みは、行政だけでは難しいものがあるので、地域と協力して取組まないといけない。
- ・ 水前寺から江津湖にかけては、ひとつのまとまった熊本が誇れる文学ゾーンであり、文化的視点を大事にして欲しい。
- ・ 計画には、サステイナブル性が必要であり、地域の方々の参画といった視点が大事になる。
- ・ 協議会の進め方（事前資料配布など）について検討して欲しい。